

**【覆水(ふくすい)盆(ぼん)に返らず】**

「離婚した夫婦の仲は決して元通りにはならない」こと、また「一度失敗したら取り返しがつかない」ことを表わすのによく使われる言葉です。

周(紀元前1027年～前256年に中国にあった王朝)の文王及び武王を補佐して天下を統一するのに大功があった太公望・呂尚(りよしょう)は、若い頃、家が貧しいのに少しも働かないで、書物ばかり読んでいました。それで妻は、あいそをつかし、離縁を申し出て家を去ってしまいました。

その後、呂尚は文王に見出されて国政を任せられるようになり、やがて武王を補佐して殷を滅し、天下統一の大功を建てて斉(春秋戦国を通じての大国)侯に封ぜられます。すると、自ら去った妻が来て復縁を願い出ました。

その時、呂尚は盆に入っている水をこぼして言いました。「もしもこの水を元の盆に返すことが出来るなら、元通り夫婦になる事も出来よう。しかし、水は決して元の盆に返るまい。そのように一旦離婚した以上は、元の関係に返すことは不可能である」と。

妻は夫を見る目のなかったことを恥かしく思い、簡単に夫を見限つ

たことをどんなに後悔したことでしょう。「覆水盆に返らず」は離婚を考える夫婦にはまたとない反省の良い言葉だと思います。

さて、“返”と回し“かえる”と読む字に“帰る・復る・還る”があります。

“返”は、“ひっくりかえす”“逆にする”という意味の“反”に、“道を行く”意味の“辵”を加えた字です。だから、「今まで歩いて来た道を反対にもどって行く」「引き返す」という意味に使う字です。

“帰”は、本来その人が居るべき所にもどる場合に使う字です。本字は“歸”で、婦人が“とつぐ”ことを表わした字です。婦人が生家を離れ、婚家に止まるという意味の字です。だから、“おさまる”“おちつく”という意味に使われます。“帰化”“帰依”“帰属”などがこれで、“帰宅”“帰国”の帰とは意味が違うことに御注意下さい。

“復”は、“二つ重なる”意味の“復”と“行く”意味の“辵”とで作られた字で、「同じ道を重ねて通る」「往った道を通して“かえる”」ことを表わした字です。だから、“往復”という熟語があります。

“還”は、輪の形をした、中にまるい穴のあるまるい玉＝環と“辵”とで作られた字です。同じ道を通らないで“ぐるっと回ってかえって来る”という意味の字です。“還暦”は、干支(えと)がひとまわりしてもともにもどることで、六十一歳になることを表わした言葉です。今は「もとにもどる」という場合に使われます。